

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名	一般国道175号 <small>にしわかきた</small> 西脇北バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：兵庫県 <small>にしわか</small> 西脇市下戸田 至：兵庫県 <small>にしわか</small> 西脇市黒田庄町大伏				延長	5.2km
事業概要 東播丹波連絡道路は、東播地域と丹波地域の連携を強化するとともに、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道と一体となって広域ネットワークを形成する延長約30kmの地域高規格道路である。 国道175号西脇北バイパスは、東播丹波連絡道路の一部を形成し、西脇市域と東播地域及び丹波地域へのアクセス性の向上、西脇市域における国道175号の交通混雑の緩和、交通安全の確保等を目的とした道路である。						
H9年度事業化		H10年度都市計画決定 (H13年度変更)		H12年度用地着手		H18年度工事着手
全体事業費	約480億円		事業進捗率 (平成31年3月時点)	約58%	供用済延長	—
計画交通量	18,200台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年
	(事業全体) 1.1	(残事業)/(事業全体) 206/555億円		(残事業)/(事業全体) 595/595億円		令和元年
	(残事業) 2.9	事業費：169/517億円 維持管理費：37/38億円		走行時間短縮便益：561/561億円 走行経費減少便益：27/27億円 交通事故減少便益：6.2/6.2億円		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=0.88~1.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.04~1.1(事業費±10%) 事業期間：B/C=0.99~1.2(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.4~3.6(交通量±10%) 事業費：B/C=2.7~3.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.8~3.0(事業期間±20%)						
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・西脇北バイパスに並行する国道175号の交通量は交通容量の約1.4倍であり、主要渋滞箇所である上戸田南交差点等において、朝夕の通勤時間帯に交通混雑が発生。 ・西脇北バイパスの整備により交通の転換が図られ、交通混雑の緩和が期待。 ②交通安全の確保 ・西脇北バイパスに並行する国道175号の死傷事故率は、兵庫県内の一般国道の約1.3倍と高く、交通混雑が主な原因と考えられる追突事故が約6割。 ・西脇北バイパスの整備により交通混雑が緩和し、国道175号の安全性の向上が期待。 ③地域のアクセス改善 ・西脇市は北播磨医療圏と丹波医療圏が連携した広域な医療圏に位置し、当該圏域では救急搬送の約7割が国道175号沿線の病院に搬送。 ・平成29年には西脇市北部の救急医療体制の強化を図るため、西脇北バイパス整備区間に西脇消防署西脇北出張所が設置されており、西脇北バイパスの整備により、広域な医療圏での救急医療活動への支援が期待。						
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・平成30年10月、西脇北バイパス整備促進協議会（H24.6設立、西脇市津万地区各町において選出された者）から国土交通省等に対し、一般国道175号西脇北バイパスの早期整備の要望を受けている。 ・平成30年11月、一般国道175号整備促進期成同盟会（S41.10設立、西脇市・神戸市・三木市・小野市・丹波市・加東市の市長及び議長）から関係機関に対し、一般国道175号西脇北バイパスの早期整備の要望を受けている。 兵庫県知事の意見： 一般国道175号西脇北バイパスは、中国自動車道滝野社ICと北近畿豊岡自動車道氷上ICを連絡する地域高規格道路「東播丹波連絡道路」の一部を形成する重要な道路である。当該区間の国道175号現道は、2車線で、交通容量（12,907台/日）を大幅に上回る17,855台/日の交通量があり、朝夕の通勤時						

間帯には西脇市中心部への入口となる上戸田南交差点等で渋滞が発生している。

また、現道の死傷事故率は県内の一般国道の約1.3倍で、そのうち交通混雑が主な原因と考えられる追突事故が6割を占めることから、交通混雑の緩和、安全性の向上を図る西脇北バイパスの早期整備が喫緊の課題となっている。

平成29年4月、西脇北バイパス(仮)寺内ランプ隣接地に開設された西脇消防署西脇北出張所では、現道の渋滞により緊急車両の走行に苦慮しており、本バイパスの完成により、現場到着時間の短縮が期待できる。また、(仮)下戸田ランプ付近では、市役所新庁舎及び市民交流施設が令和2年度に完成予定であり、西脇市ではこれら施設を核とした中心市街地の活性化を図ることとしている。このため、沿線市からも早期完成の強い要望がある。

こうしたことから、より一層のコスト縮減に配慮していただきながら、安全で円滑な交通確保と地域の活性化に資する本バイパスの(仮)寺内ランプ～(仮)畑瀬ランプの令和元年度部分供用に続く早期全線供用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道175号西脇北バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

西脇北バイパス周辺地域の人口は減少傾向、1世帯当たりの自動車保有台数は県平均の約1.9倍と自動車への依存が高い傾向は変わらず、社会経済情勢等の大きな変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度事業化、用地取進捗率約97%、事業進捗率約58%(平成31年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

令和元年度に西脇市寺内から同市黒田庄町大伏間を部分開通予定。引き続き、事業を推進し、早期の全線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

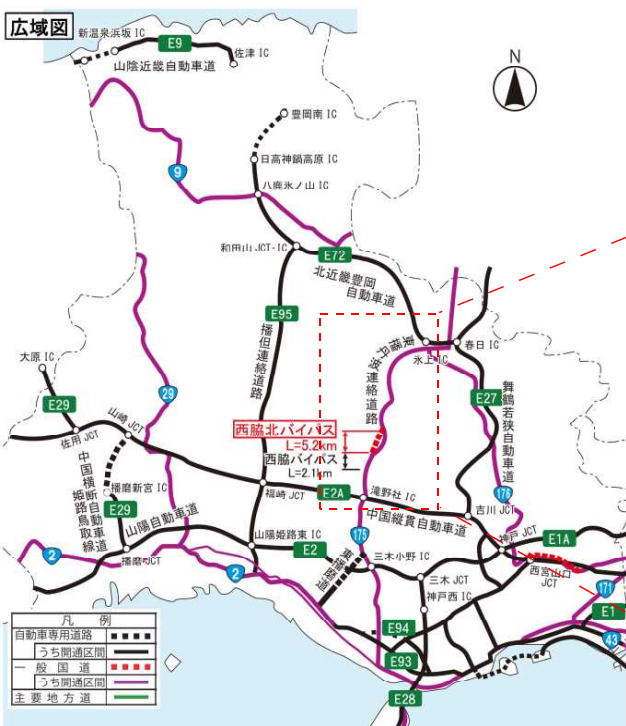
対応方針

事業継続

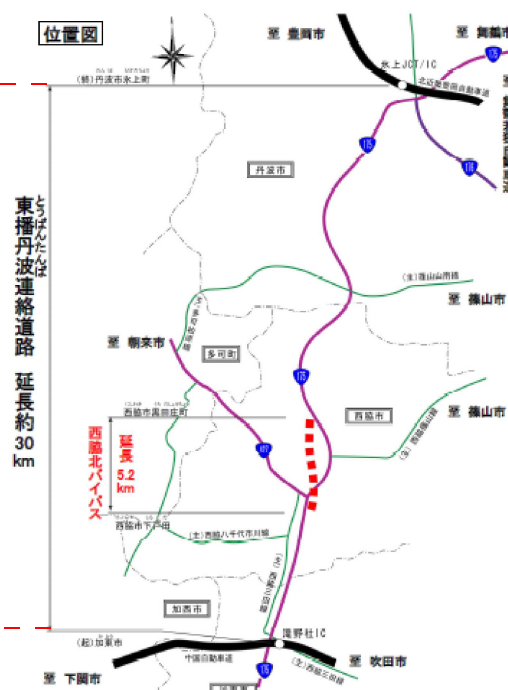
対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

位置図 事業概要図



概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。